

年間第29主日

第1朗読 イザヤ 53・10-11

第2朗読 ヘブライ 4・14-16

福音朗読 マルコ 10・35-45

2021.10.17 カトリック高円寺教会

ジョン・ジュン神父（クラレチアン宣教会）

支配者と僕^{しもべ}

教会での一番最初の分裂は、二人の弟子と十人の弟子との分裂でしょう。今日の福音ですね。団体の中でリーダーを奪い合うと教会の分裂と衝突と苦痛がはじまります。

8世紀に教会では戴冠式の冠は三重の立派な冠になりました。宝冠は王国の権力のしるしということです。教皇パウロ6世は戴冠式でこの三重の宝冠をかぶりましたが、彼は「これはキリストのいばらの冠に合わない」とすぐに外されました。それを見た周りの人たちは大変驚きました。世の中の人々は成功を追求したいが失敗したくない；人を支配したいが人に仕えたくない。

逆に神様の教えでは正反対です。一番大切なことは忠実な僕になることです。

第一朗読のメッセージでは、神様は謙虚な僕を集めます。特別な容姿なし、金銭なし、弱いし、軽蔑されるし、世間では失敗の人間ではあるが、神様にとってこの人は成功者です。神様の救いは犠牲と苦難と自分の奉献を通して実現することにあります。

第二朗読では、わたしたちを救うため、キリストは世に降り、困難、苦難、誘惑を乗り越え、身をもって教えてくれました。

今日の福音を見てみましょう。福音の中でヤコブとヨハネはイエス様に従い、「栄光を受けるときに自分たちの一人をイエス様の右に、もう一人を左に座らせてください」と頼みます。別の十人の弟子たちはそれを聞いて腹を立て、イエス様の言葉も全く理解できませんでした。そのために団体は分裂しました。

権力に対する欲望はある意味、盲目的で、自惚れることです。例えば、もし司祭の中で誰かが司教になりたい、いつか上の上席に座りたいと考えている人がいれば、それは教会の不幸、大変なことです。

今日の福音の中で二人の弟子は恥ずかしい要求をしましたが、イエス様が亡くなった後に、この二人のうちの一は信仰のために殉教し、ヨハネは一生神様に忠実に宣教しました。

イエス様は、弟子たちと一緒にいる養成期に、団体の中での権力使用の問題について、はっきりと指摘しました。「あなたがたの中で偉くなりたい者は、皆に仕える者となり、一番上になりたい者は全ての人の僕になりなさい」と。仕える者も僕も神様のお使いとなります。

イスラエルの中で、ラビの弟子たちは自分の先生に従い、何でも言いなりになり、何でも服従しました。ラビがロバに乗るとき弟子たちは歩き、毎日掃除し、先生の足を洗い、謙虚な振りをしました。でも、いつか学生が先生になるとすぐ、特権と名誉、地位を奪い取る。イエス様はこのような養成の仕方を注意しました。

イエスに従うことは、全ての人の僕になることです。

わたしたちの家族間も同様です。お互いに仕え合えば、幸せになります。